

自己評価報告書

平成 23年 5月 20日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242020

研究課題名（和文） 東欧ロシア史学史研究の総合

研究課題名（英文） Synthesis of East European and Russian Historiographies

研究代表者

渡邊 昭子（WATANABE AKIKO）

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20293144

研究分野：ハンガリー史

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：東欧史・史学史・比較史

1. 研究計画の概要

本研究は東欧ロシアの諸地域および地域全体に関する歴史認識枠組みの変化を比較検討することを目的とする。そのために以下の研究を計画した。

(1) 資料の収集と分析

東欧ロシア史学史に関する文献および史料を調査・収集して整理・分析する。東欧ロシア史学史全体を俯瞰するような基本的文献については精読するとともに、各論についても調査して、研究史および現在における研究の動向を明らかにする。

(2) 文献データベースの作成

(1)の資料調査結果を踏まえて、東欧ロシアの歴史家とその作品を網羅したデータベースを作成する。

2. 研究の進捗状況

(1) 東欧ロシア史学史に関する基礎的な研究資料の調査、収集、分析をおこなうとともに、分担者各自が専門領域に関する研究史を調査した。その結果、東欧ロシア史学史の基本的かつ包括的な研究文献がニーデルハウゼン・エミル著『東欧ロシア史学史』であることを確認し、同書がハンガリー語で記されていることから、研究参加者の間で章ごとに分担して読解と翻訳を進めた。

計6回の研究会を開催し、『東欧ロシア史学史』を読み進めるとともに、東欧各地域を専門とする研究協力者も加えて、用語と概念の統一に向けて議論をおこなった。現地に派遣した協力者からは、各地の史学史研究の現状に関する情報を得た。また、旧ユーゴスラヴィア地域等いくつかの地域ごとに専門家を招聘して分科会をおこない、各地域の歴史叙述に関する用語と概念を整理した。

(2) 現地協力者に依頼し、『東欧ロシア史学史』で言及されている文献について原語での書誌情報を得た。さらに、研究代表者、分担者、そしてのべ17人の協力者が現地に赴き、それらの文献ならびに他の文献についても可能な限り実物を図書館等で探査した。こうしてチェコ史1096、ブルガリア史1150、ハンガリー史987、クロアチア史782、セルビア史590、ロシア史575、ポーランド史480、スロヴァキア史245、ルーマニア史294、スロヴェニア史179の文献情報を整理することができた。これらの文献情報は、今後のデータベース作成の基本データとするために、電子化して研究分担者間で共有し、『東欧ロシア史学史』の翻訳に注の形で組み込んだ。

(3) 研究成果は『東欧ロシア史学史』の翻訳に文献目録のCDを付録する形で公表することに決めた。上記の通り翻訳と文献情報の収集はほぼ終了し、最終年度の公刊に向けて作業を進めている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) ほぼ計画通りに研究が進捗しているため。

4. 今後の研究の推進方策

今年度もこれまで同様に計画に沿って研究を続ける。とくに研究の最終年度として、これまでの研究内容の整理と研究成果の公表に重点を置く。すなわち『東欧ロシア史学史』および文献データベースの公表を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

- ① 三苫民雄、もう一つの正義—旧約の神—、留学生別科紀要、3号、27-34頁、2011年、査読無
- ② 姉川雄大、二重君主国期ハンガリーにおける体育と自由主義ナショナリズム—育てるべき市民の道徳と軍事化—、東欧史研究、33号、3-23頁、2011年、査読有
- ③ 渡邊昭子、近代ハンガリーにおける国民的料理の誕生、歴史研究、48号、29-70頁、2011年、査読無
- ④ 戸谷浩、歴史遺産としてのドナウと、Pars pro toto 論：エステルハージ・ペーテル著 (早稲田みか訳)『ハーン=ハーン伯爵夫人のまなざし—ドナウを下って—』、国際学研究(明治学院大学)、39号、137-142頁、2011年、査読無
- ⑤ Osamu Ieda、Integrated environmental policy from a regional perspective in Slavic Eurasia, Forum on Public Policy, no. 3, pp. 1-9, 2010, 査読有

〔学会発表〕(計5件)

- ① AKIYAMA Shingo, A magyar-kutatás múltja és jelene Japánban, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月2日、ペーチ大学
- ② SUZUKI Hirokazu, Török-kép az értelmiség körében a korújkor Magyarországon, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月3日、ペーチ大学
- ③ TOYA Hiroshi, A Militárgrenze jellegének változása az újkor Magyarországon, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月3日、ペーチ大学
- ④ YAMAMOTO Akiyo, A pécsi tímárok és céhük a 18. században, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月3日、ペーチ大学
- ⑤ 渡邊昭子、異宗派間の婚姻—19世紀ハンガリーにおける制度・議論・実態、東欧史研究会・ハプスブルク史研究会、2009年10月10日、聖心女子大学

〔図書〕(計4件)

- ① 平田武、北海道大学出版会、ポスト社会主義期の政治と経済：旧ソ連・中東欧の比較、2011年、19-48頁
- ② 秋山晋吾、青木書店、由緒の比較史、2010年、381-405頁
- ③ 山本明代、風媒社、反響する文学、2010年、

113-145頁

- ④ 土肥恒之、日本エディタースクール出版部、ロシア社会史の世界、2010年、363頁
- ⑤ 平田武、北海道大学スラブ研究センター、体制転換の先端的議論、2010年、21-62頁
- ⑥ 三苫民雄、日本出版制作センター、法と道徳—正義のありか、2009年、191頁

〔その他〕(計2件)

- ① (翻訳) ロビン・オーキー著、三方洋子訳、山之内克子、秋山晋吾監訳、NTT出版、ハプスブルク君主国、2010年、576頁
- ② (翻訳) ロバート・F.バーンズ著、清水昭雄、加藤史朗、土肥恒之共訳、彩流社、V・O・クリュチェフスキー：ロシアの歴史家、2010年、462頁